



ROTARY
WEEKLY
NEWS

事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：熊谷 健 副会長：井上 修 幹事：小椋文成 公共イメージ向上委員長：太田明良

	2024-2025 国際ロータリーのテーマ ロータリーのマジック	2024-2025 RI会長 ステファニー A. アーチック ＜米国ペンシルバニア州＞	
第1733回例会 令和7年3月25日(火)			

■ 点 鐘 12 : 30

■ ソング 翔け 中央ロータリー 加藤篤ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

- ・日本銀行松本支店 支店長 真川伸樹 様
- ・支援留学生 キョ ブンクン 様
- ・支援留学生 エムディ・バディウル アラム 様



■ 会長談話 熊谷健会長



去る3月9日の日曜日は、上伊那グループ「インターシティーミーティング」が駒ヶ根で行われましたが、わが伊那中央ロータリークラブからは21名のメンバーが参加し、盛会に執り行われました。ご参加下さったメンバーの方々は大変ご苦労様でした。

記念講演では、NHK ラジオ第一「ふんわり」の金曜日パーソナリティーの黒川伊保子（くろかわいほこ）さんを講師に迎え「思春期のトリセツ」と題して講演をいただきました。ロータリーメンバーを含め約300人の観客が赤穂公民館を満員にして、市民を巻き込んだ講演会として大盛況であったと思います。

私は、黒川さんという人は知らなかったのですが「妻のトリセツ」「夫のトリセツ」等トリセツシリーズが100万部も売れているかなりの有名人だったんですね。

2部の本会議では、パストガバナーの伊藤雅基さんから「明るい未来を会員拡大で築きましょう」と題して講演をいただきました。

質疑応答では、誰と誰とは言いませんが、わがクラブのメンバーだけが活発に質疑と意見を述べ、会場を沸かせました。

後の懇親会では、ガバナーや他のクラブの方々から「あんな個性の強いメンバーをまとめるのは、会長さん、大変でしょう？」と労いの言葉を多くいただきました。私は「とても大変なんです。」と答えておきましたが、

本心では、元気なわがクラブを誇りに思っています。

懇親会の後は、伊那へ帰って、いつものとおり北原さんのお店で二次会を行い充実した夜を過ごしました。以上が、上伊那 IM の報告です。

今日はこれから、日銀松本支店長の真川様の卓話を予定しています。

大企業では、軒並み給与の大幅なベースアップだとか、株価が堅調に伸びているとか、都市部の不動産が高騰しているとか、景気のいい話題が出ていますが、私どもは伊那にいて、その実感が余りありません。

私たちも、伊那の地域の経済人として、今日はしっかり勉強させていただきたいと思います。真川様、どうか宜しく願いいたします。

いつも、会長談話は長いというような話をいただいていますので、今日は短く納めます。ご清聴ありがとうございました。

■ 留学生送別の会

・委員長挨拶 杉本徳治国際奉仕委員長



キョさん、アラム君、一年間ロータリー活動、例会に参加していただきありがとうございました。今日この日を迎えられたことを、心から嬉しく思います。

信州大学で積み重ねた経験や学びは、これからの新しい挑戦において必ず役立つはずです。これから進む道は様々な試練が待ち受けているかもしれませんが、努力と明るさで素晴らしい成果を手にすることでしょう。自信をもって前進し、更に成長し続けて下さい。

支援留学生お二人からは、伊那中央ロータリークラブの皆様に対して、「ご支援を頂き感謝の気持ちとお礼の挨拶」がありました。

・送別の言葉・記念品贈呈 熊谷健会長

キョ ブンクンさん、エムディ バティウム アラム君、一年間大変ご苦勞様でした。また、わがクラブの例会によく出席していただきました。

キョさんには、今日素敵なキノコ料理のお土産をいただきました。可愛らしく手書きで食べ方も書いていただきました。ありがとうございます。アラム君には、今日も肥沼会員が通訳として就いてくれましたが、日本語ももう少し覚えていただけたら嬉しいなと思いました。

お二人とも、伊那中央ロータリークラブのメンバーと一年交流を深めていただいたこと、忘れないで下さい。益々、勉学に励んでいただくとともに、日本と母国の架け橋となつていただくことを祈念して、送別の言葉とさせていただきます。



■ ニコニコボックス

◆熊谷健

日本銀行松本支店 真川支店長様、ようこそ伊那中央ロータリークラブの例会にお越しくださいました。後ほど卓話をよろしくお願い申し上げます。

また、キョさん・アラム君、本日は「送別の会」を設けさせていただきました。1 年間大変ご苦勞様でした。

◆加藤篤

真川伸樹様、本日はよろしくお願いします。

また、キョさん・エムディ アラムさん、それぞれのこれからの活躍を祈念します。

しばしお休みを頂いておりましたが、術後経過も良好でこれからまた参加させていただきます。

- ◆◆伊藤かおり 日本銀行松本支店長 真川様、支援留学生キョさん・アラムさん、ようこそお越しくださいました。本日は宜しくお願い致します。
- ◆杉本徳治 今日は支援留学生キョさん・アラム君の最後の例会参加となります。会員の皆様には一年間、お二人の応援をしていただきありがとうございました。
- ◆橋爪麻人 カレー交流パーティーは僕のロータリー ベスト事業となりました。アミンさん・アラムさん、ありがとうございました。
- ◆肥沼光彦 バディウル アラムさん、学業も順調に進んでいるようで何よりです。
先月に続いて、日本モロッコ協会によるモロッコツアーのお知らせです。10月7日（火）夜出発、翌週金曜日帰国の日程（9泊12日）機内2泊を基本にHISで計画中です。（但し、値上がり厳しく諸費用食費込みで75万円／人になってしまいますが、ご関心の向きは肥沼にお声掛け下さい。
- ◆井上修 先日、松本で会長エレクト研修に参加致しました。80人と名刺交換し、ロータリーの学びもありました。終了後は松本の街へ繰り出し、深夜まで親交を新しい仲間と深めました。クラブのお勧めは「ひみこ」。私のボトルが入っています。
- ◆宮下健 卒業式の季節となり長男が高校を卒業、次男が中学校を卒業となりました。次男は私の母校である「赤穂高等学校」に入学します。井上同窓会長よろしく願いいたします。

■ 出席報告

会員数44名 出席免除会員5名 長欠会員1名 本日出席者29名 事前メイク1名
出席率78.95% 前回出席率 修正なし

■ 幹事報告

小原文成幹事

幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告

・3月5日（水）第2回会員増強・プログラム委員会の報告

橋爪麻人会員増強・プログラム委員長



荒井の美華にて9名での委員会となりました。内容は4月の入会を目標とした入会説明会の開催について協議いたしました。4名の方を対象として、3月中に入会説明会を行う予定で役割分担等決めました。今回は明後日27日に1名の入会説明会という結果になりましたが、引き続き説明会の機会を伺いつつ新候補者も探したいと思えます。

・3月8日（土）新会員セミナーの報告

唐澤知子会員



このセミナーは8月に1回目が開催されたのですが、それが大変好評だったためこの度2度目の開催の運びとなったようです。今回は新会員とベテラン会員のクラブの垣根を超えた交流により、よりロータリーの良さを実感して欲しいということで、3年以下の会員だけではなく入会20年以上の会員の方々にも参加を呼びかけておりました。当クラブからの参加は北原幹子会員、澁谷恵二会員、そして私唐澤でございました。

会場は塩尻市の中信会館、行ってみますとやはりどのクラブも新会員がほとんどのようでした。

クラブで挑戦したいこと、叶えたい夢などを語り合い、また他クラブの様子、例えばニコニコボックスの運用方法などについてぎっくばらんにいろいろなお話をお聞きすることができ、大変勉強になりました。懇親会ではテーブルごとにトイレットペーパーロール積みの競争をして大いに盛り上がり、2600地区の他のメンバーと交流を深めることが出来ました。

普通ならとても出会えないような方々と知り合えたこと、まさにロータリーのおかげであり、このセミナーの開催意図、よりロータリーの良さがわかる、このことを実感いたしました。実り多いセミナーであったと思います。

■ 卓 話

・卓話者紹介 小川秋實会員



日本銀行松本支店長・真川伸樹氏は、三重県津市の出身。1999 年 名古屋大学法学部卒業、日本銀行に入行。決済機構局・業務局・総務人事局・システム情報局・政策委員会室の各企画役を歴任され、2021 年 金融研究所制度基盤研究課長、2022 年 業務局総務課長を経て、2024 年 7 月 松本支店長に就任されました。初めての支店勤務です。趣味は、地図を読むことで、休日に県内の美しい景色や建築物を訪ねられています。私は松本での会合でお会いし、卓話をお願いしたところ、快諾していただきました。

・卓話 日本銀行松本支店 支店長 真川伸樹 様 「物価と賃金をめぐる変化」

1. はじめに

ここ数年、物価と賃金が注目されています。物価と賃金は、私たち個人の日常生活にも企業の経営活動にも直結しますが、物価や賃金をめぐる 足もとの変化はわが国の経済や社会の姿にも影響しそうです。

まず、物価上昇は困ったことでしょうか。日本銀行が実施している「生活意識に関するアンケート調査」の結果によると、8 割以上の方が「どちらかと言えば困ったことだ」と回答しています。これに対し、質問の仕方を変えて、物価や賃金について「どんな状態が好ましいか」と尋ねると、企業の約 7 割、家計の 5 割近くが「物価と収入がともに緩やかに上昇する状態」と答えるそうです。それでは、なぜ両方が緩やかに上昇する状態が好ましいのでしょうか。また、企業の約 1 割、家計の半分は、なぜ「物価と収入 がともにほとんど変動しない状態」が好ましいと考えるのでしょうか。



2. 1990 年代以降の 物価・賃金 をめぐる環境

話を進める前に、わが国 の経済について振り返りたいと思います。1990 年代後半以降、緩やかなデフレが長期にわたって継続しました。デフレというのは、物価が持続的に下落する現象を指しますが、これが長期にわたって続いてしまったことで、物価や賃金が上がりにくいことを前提とした慣行や考え方が社会に定着してしまいました。いわば「それが当たり前」になってしまったわけです。

先ほどの質問に戻ります。なぜ物価・賃金の緩やかな上昇が好ましいのでしょうか。日本銀行が全国の幅広い業種・規模の企業（約 2,500 社）に対して実施したアンケート調査 の結果によると、「価格転嫁が容易になり収益を確保しやすいと思うから」、「賃金が増えると家計のマインドや消費にプラスだと思うから」との回答の割合が高くなっています。また、「値上げを抑制するためのコストカットが不要になり、前向きな設備投資や賃上げを行えるようになるから」といった回答も多いです。このことから、企業の皆さんは、従業員 に賃金で報いたい がそうはいかない、価格転嫁が難しい、値上げを避けるためコストカットを優先せざるを得なかった、とお考えのようです。こうした状況が好転することが望ましいと考えることは自然のように感じます。

3. 物価と賃金の好循環とはどういった環境か

物価と賃金がどのように動くことが、経済の好循環に繋がるのでしょうか。物価が毎年 2 % 程度上昇することが「当たり前」の社会では、物価と賃金は追いつけっこをし、企業と労働者が互いに損をしないように緩やかに上がっていきます。その際に、重要になるのは、企業と労働者がともに「物価と賃金が緩やかに上昇する」と予想することです。

これに対し、わが国では「物価も賃金も上がりにくい」ことが「当たり前」になっていました。こうした環境においては、労働者の側は、賃金が上がらなくても、価格は上がらないので損をすることはありません。また、企業の側も、今の価格を続けても賃金の支払いに必要な利益を確保することができますので、価格を据え置きます。こうして、わが国では、賃金の据え置きと価格の据え置きが連鎖的に発生しました。ここでも、

物価と賃金には、人びとの「予想」が鍵を握っていました。

わが国の物価が上がりにくくなった要因としては、①慢性的な需要不足、②グローバル化の進展やITの技術革新による物価下押し圧力、③賃金・物価が上がりにくいことを前提とした慣行や考え方の定着が挙げられます。

②に関しては、新興国の発展により、わが国には、テレビやパソコンなど安い海外製品が輸入され、物価を押し下げました。また、グローバルな競争環境に晒される中で、日本製品の価格の高さが問題視され、コストカットを進めて価格競争力を高めることが課題となりました。このことは、企業に、値上げを抑制するためのコストカットを優先させるとともに、前向きな投資や賃上げを抑えさせる結果となりました。先ほどの企業アンケートで「値上げを抑制するためのコストカット」という回答がありましたが、まさに、このことです。

このように、わが国では、企業が価格を支配する力が低下し、コストが上昇しても販売価格に上乗せすることが難しくなりました。また、企業は事業の再構築を進めましたが、その過程では、賃金を抑制してでも雇用を安定させることが重視されました。このことは、失業の急増を避ける効果を持ちましたが、賃金の抑制傾向が強まる一因になったと考えられます。

4. コロナ禍以降の物価・賃金をめぐる変化

時計を現在に戻します。コロナ禍以降、物価上昇が継続しています。足もと、生鮮食品を除く消費者物価(CPI)の対前年比は、全国で+3.0%、長野市で+3.0%(いずれも2025年2月)となっています。物価の上昇要因を分解すると、財の価格もサービスの価格も上昇しています。次に、賃金はどうでしょう。こちらでも緩やかに上昇しています。厚生労働省の「毎月勤労統計」では、いわゆる基本給にあたる「所定内給与」の対前年比は、全国で+2.9%、長野県で+4.7%(2025年1月)まで上昇しています。もっとも、物価上昇の影響を除いた実質賃金は、安定的にプラスにはなっていません。

物価上昇の背景には様々な要因がありますが、コロナ禍以降の動きを大まかに整理すると、第1の力として「輸入物価上昇の価格転嫁」が先行して作用し、第2の力として「賃金と物価の好循環の強まり」が作用していると考えられます。

最初のトリガーは、コロナ禍以降の輸入物価の大幅な上昇です。輸入物価には、原油や銅のほか、食料加工品の原材料となる小麦などの輸入価格が含まれます。輸入物価は、これまでに上昇したことがありましたが、今回の波は非常に大きなものとなりました。

これまで、わが国の企業は、輸入物価が上昇しても、それを販売価格に極力転嫁しないようコストカットで吸収してきました。サプライチェーンの上流から下流に向かって価格がどのように転嫁されていくかを示したグラフ(最終需要・中間需要物価指数)をみると、上流から下流に移るに従って、企業のご努力で、価格の上昇が吸収されていく姿がはっきりわかります。コロナ禍前に輸入物価が上昇したときには、上流の価格は上昇しますが、最終的な販売価格は殆ど変化していません。これに対し、コロナ禍以降は、輸入物価の上昇幅が大きかったため、企業努力では吸収しきれず、最終的な販売価格が上昇しています。特に、プライスリーダーとなる企業が値上げに動いたことで、業界全体が値上げしやすくなったとも言われます。このように、輸入物価の大幅な上昇を経て、企業の価格設定行動が積極化しました。これが、「物価も賃金も上がりにくいことを前提とした慣行や考え方」に変化が生じてきたと考えられる一つの要因です。

次のトリガーは、先行きの労働投入余力の減少です。わが国では、15～64歳の生産年齢人口は減少してきていますが、女性や高齢者の労働参加を進めることによって就業者数は増加してきました。もっとも、今後、追加の投入余力は減っていくと考えられています。特に、先行き、団塊ジュニア世代が定年退職期を迎えることから、企業における正社員の採用意欲が高まっていると言われます。こうしたことを背景に、人手不足感は幅広い規模・業種で高まっており、人材確保の観点から、賃上げの動きが広まってきています。

5. 機械による労働の代替弾力性と賃金・投資

人手不足を緩和する方法としては、労働を機械(資本)で代替することが考えられます。業種別に、機械によって労働をどの程度代替可能かを分析した結果によると、はん用・生産用・業務用機械の生産と、建設や宿泊・飲食サービスの提供は、生産やサービス提供の減少を避けるため、どうしても人手を確保する必要があります。これが賃金の上昇圧力となります。サービス価格の上昇には、こうした要因もあります。人件費の価格転嫁は容易ではありませんが、それでも、ここ数年は、年を追うごとに転嫁率が高まっています。

このように、労働需給がタイトになるもとで、企業の価格設定行動が積極化したことにより、先行きも物

価が上昇するとの見方が広がっています。こうした変化は、物価と賃金の循環にどのように影響するのでしょうか。物価と賃金が循環するためには、企業と労働者の両方が先々の物価上昇を予想することがポイントでした。人びとの予想が変わらないとすると、物価と賃金の上昇（循環）は一時的なものとなります。過去に輸入物価が上昇した際には、販売価格の上昇は限定的でしたので、人びとの予想を大きく変えるには至りませんでした。

これに対し、足もと、企業や家計の物価に対する予想が変化してきています。このことは、物価と賃金が追いつき合う好循環の姿に移りつつあることを意味します。「今回こそこれまでと違う」と言い切れるか、今後の展開が注目されます。

6. おわりに

わが国経済のパラダイムは大きく変化しているようです。経済は「需要と供給」で決まります。長年「需要の不足」が問題でしたが、これからは「供給の不足」「需要があっても供給できない」ことが影響してきそうです。私たちは、こうした変化に備えていく必要があると思います。

(参考文献)

渡辺勉、『物価を考える デフレの謎、インフレの謎』、日本経済新聞出版、2024 年

日本銀行、「金融政策の多角的レビュー」、2024 年 12 月

日本銀行、「経済・物価情勢の展望」、2025 年 1 月

・謝辞 熊谷健会長

日本銀行松本支店長の真川様、本日はご多用のところわがクラブにおいで下さり、貴重な卓話をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

経済の話はなかなか難しいのですが、今我が国はデフレから脱却して、「物価も賃金も上昇していく」転換期であることがなんとなくわかりました。需要と供給の関係では、需要の不足から供給の不足へ、「需要があっても供給が追いつかない。」という時代がやってくるという話も興味深く聴かせていただきました。

真川様におかれましては、ご健勝で、益々ご活躍されんことを祈念して、謝辞とさせていただきます。



■ 点 鐘

13:30

次回例会

4月1日（火） 点鐘／12:30 場所／海老屋料理店